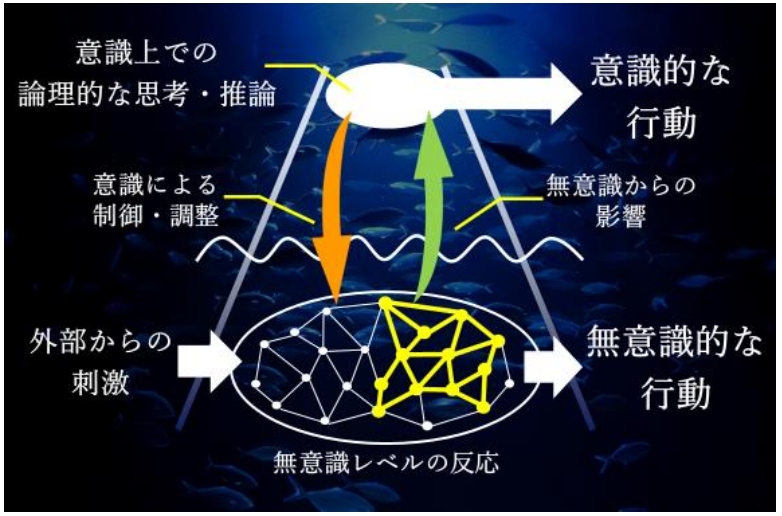
総合人間科学系
教職支援センター

意識と無意識の両方の視点から子どもたちの心の成長を考える

近年，人間の情報処理機能には意識と無意識の２つのシステムがあり，９割ほどは無意識のシステムによって決定されていると考えれています。心理学でよく使用される質問紙法（アンケート調査）では意識上の心理特性が測定されます。一方，無意識の心理特性も，潜在連合テスト（Implicit Association Test: IAT）などの方法で数値化することができます。私はこのIATを使って，児童期・青年期の発達には欠かせない，無意識レベルの「自尊感情」や「向社会性（思いやりの心）」について研究を進めています。



意識と無意識の２つのシステムについてのイメージです。意識は論理的，統制的な処理を行い，無意識は直感的，自動的な処理を行うと考えられています。

教職支援センター

横嶋 敬行　助教

兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科博士課程修了。博士（学校教育学）。公認心理師。
四国大学学修支援センター合理的配慮コーディネーターを経て，2022年9月に信州大学教職支援センターに着任。

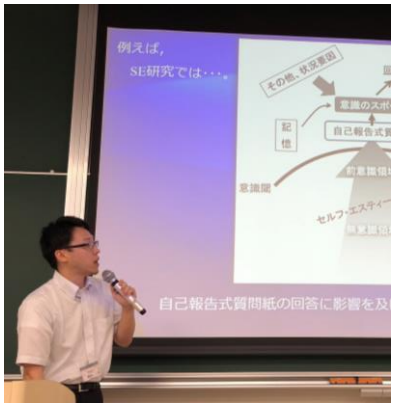
研究から広がる未来

自尊感情や自己肯定感の育成は教育現場で重要視されていますが，意識的な自尊感情が高い場合であっても，無意識的な自尊感情が低いと，精神的健康や適応行動に問題が生じてしまうことをご存じでしょうか。子どもたちの無意識の心の特徴を理解することはとても難しいことですが，教育には欠かせない視点です。

意識と無意識の２つのシステムに関する知識は，児童生徒理解に対する新しい気づきを提供してくれます。

卒業後の未来像

児童生徒理解の知識や技量は，教師として，親として，社会人として，「教える側」に立ったときに発揮されるだけでなく，自分自身の心の成長に向き合う力にもなります。私の授業では，自他を尊重し，自律的な生き方を選択できる学生の育成を目指しています。



日本心理学会
シンポジウムの様子

紙とえんぴつを使った
児童用の紙筆版IAT